

We are proud of Kizugawa-city.

KYOTO KIZUGAWA CITY

# 絆人 Kizuna-Bito

VOL.01



あなたのサポートがこのまちの明日をつくる

風にきづいて未来をきざす



京都府木津川市



Love for Japanese Local

[ 絆人 Close Up 2 ]

## 自分がおもしろいと 感じるものを

arumitoy

たご あゆみ  
多胡歩未さん

日本では無理！  
ドイツでもちゃ修行

ヒツジやキリンなど、動物がモチーフのガラガラは押さえるとやさしい音が出る。パーツをひもに通したり、外したりできるイモムシ型の人形。穴のあいた木の筒に、木のスティックを差し込んで組み立てるブロックは、いろんな遊び方ができそう。こんな楽しい木のおもちゃをデザインし、制作、販売まで手掛けているのが arumitoy (木津川市加茂町) の多胡歩未さんだ。

「高校生の頃から、木のおもちゃが好きで、作る人生を歩むんだろうなと思っていました。でも大学でデザインを学んで、さあ、就職だと思って見まわすと、日本には私の行きたい道がなかった」



染料はすべてヘニバナなどの植物由来。子どもが口に入れても安心



ステイホーム期間中に考案した「おうちで遊ぼうセット」



築100年の古民家をリフォームした店



おもちゃに使っている木は、木目の美しいブナ(ヨーロッパアンビーチ)

惹かれるおもちゃがドイツ製であったことから、多胡さんは資金を貯めてドイツに渡る。半年間、集中的にドイツ語を学んだ後、ドイツ国内のおもちゃ作家や職人を訪ね歩いた。そして、「波長があって、この人だ!と思った」というノベルト・フエアノイアさんに弟子入り。工房に住み込み、2年半、みっちり木のおもちゃ作りを学んで帰国した。

まずは作る。他は「後付け」

なぜ木なのか。多胡さんは「木は生きていくから。生きている素材が好きだから」と話す。作る人生、と云っても、職人のように精緻な工芸品を作ったり、他人のアイデアを形にしたりすることに、興味はなかった。自分の

考えたモノを作りた。その思いに、ただひたすら突き動かされてきた。

arumitoyの店内にディスプレイされているおもちゃには、1歳さんにおすすめの3歳さんが夢中などの説明が添えられている。しかし実は、それらはすべて「後付け」。自分が作りたいモノを作り、それを何歳頃の子どもが好むのか、どうやって遊ぶのか、観察して書くのだと言う。

「この歳の子どもにこれを作る、これを作ったら売れるかも、という発想はないんです。私がおもしろいと思うものを作る。その後、アピールの方法や売り方を考えるから、売る段階まで行くのにすごく時間がかかる」



後ろに見える大きな花は、子どもの力で回せる壁かけのおもちゃ。グッド・トイ賞を受賞したおもちゃもある

## ニッポン・ローカルの魅力発見

播るぎない創作意欲と、子どもの反応を受け入れる柔軟さが、多胡さんのおもちゃ作りの根幹だ。

どんな時も  
「おもしろい」を忘れない

コロナ禍によるステイホームの期間、自身の子どもたちのストレスが増しているのを実感した。その時に作ったのが、おうちで遊ぼうセット。

「こんな時こそ、私がおもしろい事を考えようと思いました。家の中で遊べて、体を動かせて、自分がやってみたいと感じるような」

面取りされたヒノキのプレートの30枚セット。材料は、知り合いの製材業者に声をかけ、間伐材を分けてもらった。プレートにアクリル絵の具で、手形や足形をペタペタしたら、並べてトイレまでルート設定したり、目印にして飛んだり、木製カルタにしたり。独自のルールを作って、子どもたちは汗だくで遊んだ。

自分の感性を信じることの素晴らしさを、多胡さんのおもちゃは教えてくれる。

☆arumitoyのおもちゃは、木津川市ふるさと納税の返礼品です。

寄付額 15,000円

「口に入れられるおもちゃ 木の動物ガラガラ」または  
「2才児が好きな ひも通しおもちゃ 集中力がつく木のおもちゃ」

赤ちゃんは舐めたいのです。2歳さんは自分でやりたいのです。そんなちびっ子達の願いが叶うおもちゃを作り続けていきたいです。

多胡さんからのメッセージ

提供：arumitoy(木津川市加茂町)  
☎ 0774-34-0625 <https://arumitoy.net/>



ふるさと納税はこちらから